

# けんぽく

第38号[平成29年1月号]

県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する情報をお知らせします。



平成29年1月31日発行

## 「食」と「ふるさと」 新生運動ニュース

編集・発行 福島県県北農林事務所

### ◆「はじめてのフルーツ・グラノーラづくり」を開催！

平成29年1月25日（水）、福島市成川の加工施設において、当農林事務所及び「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」県北地方推進本部が主催し「はじめてのフルーツ・グラノーラづくり」研修会を開催しました。

この事業は、管内で6次化に取り組む事業者を対象に、特産品である果樹を使用した商品開発につなげるためのアイデアと加工技術の習得を目指し、少人数で実践的な内容で開催するものです。今年度は、最近スーパー等で見かけることが多くなったドライフルーツを使用した「フルーツ・グラノーラ」をテーマに開催し、管内の農業者等8名が参加しました。

当日は、株式会社エフ・エム・アイ（東京都港区）より、パティシエの松下純氏を講師にお招きし、午前に講義、午後加工実習を行いました。



松下講師の講義の様子

午前の講義では、フルーツ・グラノーラとはどんなものか、フルーツ・グラノーラの基本的な食べ方や材料の説明、材料の1つであるドライフルーツの作り方、アレンジメニューの紹介、保存方法などについて紹介がありました。



加工実習の様子

午後からの加工実習では、実際にフルーツ・グラノーラをつくってみました。参加者は、まず午前中に下処理されたオートミールに、用意された数種類のドライフルーツとナッツ類から好みで選んだものを組み合わせて、サラダオイル、グラニュー糖、ハチミツを加えたものをよく混ぜ合わせる作業を行いました。続いて、オーブンを使用し設定された温度と時間で焼き上げ、出来上がったフルーツ・グラノーラを、冷ましてから真空包装器でパック詰めしました。



オーブンで焼き上げられたフルーツ・グラノーラ

最後に、アレンジメニューの一例として、講師の松下氏によるグラノーラ・マフィンの製作・実演があり、出来上がったものを試食しながら、質疑や意

見交換を行いました。参加者からは加工実習の中で感じた手順や材料の分量の調整に関する疑問を確認する質問等がありました。

今回の研修により、今後、県北地域特産の果実を使用した新たな6次化新商品の開発が期待されま

す。  
(企画部)

### ◆福島市農業後継者連絡協議会が川崎市で地元農産物のPRをしました！

平成28年11月26日(土)及び27日(日)、神奈川県川崎市の市立日本民家園で開催された「夜の民家園ーあそびにこらんしょ福島市ー」に、県の「ふくしまの恵みPR支援事業」を活用して、福島市農業後継者連絡協議会会員9人が出展し、福島市産リンゴ(サンふじ)と米(コシヒカリ)のPRを行いました。

26日は、古民家の中に出展ブースを設け、来場者へリンゴと米の試食提供を行いました。夜にもかかわらず多くの人で賑わいました。



日本民家園での夜のPRの様子

27日は、日本民家園の外にも出展し、付近を散歩する人にも試食してもらいました。

試食をした人からは「甘くて美味しい。蜜がこんなに入っているリンゴは食べたことが無い」、「このコシヒカリはもちもちしていて甘みがある」等の感想を聞くことができました。今回のPRにより、首都圏に福島市産農産物のおいしさを伝えられたと思います。また、会員も自分達の生産物のおいしさ

が評価されたことで、さらに自信が付いたようでした。



民家園外でのPR活動

当協議会が若い力を存分に活用して、今後も県内外問わず福島市産農産物の魅力を発信していくことが期待できる出展となりました。

(農業振興普及部)

### ◆県庁食堂で山木屋産米をPRしました！

平成28年12月20日(火)から22日(木)まで及び、平成29年1月24日(火)から27日(金)までの7日間、県庁食堂及び議会食堂において、川俣町山木屋産の米のPRを行い、平成28年度に同地区の営農再開実証ほ場で収穫された米240kgが提供されました。



県庁食堂の様子

食堂の壁面には「山木屋営農再開」の文字とともに、実証ほを担当していただいた本田勝信さんや山木屋地区で栽培されているトルコギキョウ、試験飼育の和牛をデザインしたポスターを貼り、卓上には



三角 POP を設置し、山木屋地区の営農再開をPRしました。



福島県東北農林事務所 農業振興普及部 電話 024-521-2608

掲示したポスター

食堂では、全量全袋検査の結果が全て測定下限値未満であることも周知し、訪れた方に安心しておいしく食べていただきました。



テーブルのPOP

議会食堂では、期間終了後もポスター及び三角POPを継続して掲示していただき、山木屋の営農再開をPRします。

(農業振興普及部)

## ◆川俣町山木屋地区で元日に子牛が生まれました！

川俣町山木屋地区の菅野真一さんは、震災後、山木屋地区から避難し、二本松市戸沢で、和牛繁殖経営を行っていました。しかし、今年度から山木屋地区の自己所有牛舎に戻り、平成28年度福島県営農再開支援事業（家畜の飼養実証）を活用して、和牛繁殖経営を再開しました。

本事業は、避難指示解除準備区域等において、畜舎の除染等が終了した区域内の牛舎で一定期間導入家畜を飼育し、牛の健康状況を確認し、最終的に肉用牛の出荷制限解除までの一連の取組を実証するものです。



新しい牛舎と菅野さん御夫妻と川俣町関川副主査(左)

事業は、川俣町、東北農政局震災復興室、ふくしま未来農業協同組合等と緊密な連携を取りながら実施しています。また、東京電力ホールディング株式会社福島復興本社除染推進室及び復興推進室から畜舎の清掃、清掃前後の畜舎や器具等の表面線量計測の支援を受けています。

飼養実証は、昨年11月15日（火）から本年2月末まで、月一度のモニタリング検査を実施しています。これまで、導入母牛3頭のうち2頭が分娩しました。1頭目は11月19日生まれで、2頭目は、元日生まれです。飼養実証前に生まれた1頭を含め、3頭の子牛たちは、寒さにも負けず、すくすく育っていて、さい先の良いスタートに菅野夫妻は笑顔がこぼれていました。



元旦生まれの雌子牛(撮影1月4日)

震災前の山木屋地区は畜産が盛んな地域であり、今回の実証事業を契機に、畜産経営の再開が大きく前進することを期待します。

(農業振興普及部)

### ◆半田銀山そばの会「新そばまつり」が開催されました！

平成28年12月11日(日)、桑折町の睦合公民館において、半田銀山そばの会主催の「新そばまつり」が開催されました。

半田銀山そばの会(氏家浩会長)は、平成24年に桑折町のそば文化の復活と東日本大震災からの復興を目的に結成し、以来、福島県オリジナルそば品種「会津のかおり」によるそば生産体制の強化や新そばまつり開催によるそば打ち技術の向上、地域住民との交流などを続けています。現在、会員は14名です。

また、結成時に、「半田銀山そば」の商標登録を行い、生そばのみならずそばつゆなどの関連商品も含めてブランド化を図るなど、地域おこしの旗印となっているのが特徴です。

開会式では氏家会長が主催者挨拶を行い、今年度のそばの栽培状況や、県の緊急時環境放射線モニタリング検査結果による安全性の報告、「会津のかおり」による地域おこしへの意気込みなど、これまでの取組が披露されました。



そばまつり開会式で挨拶をする氏家会長(中央)

次に、桑折町役場やふくしま未来農業協同組合、桑折そば打ちクラブ、桑折町商工会などの来賓を代表して、伊達農業普及所吉田清所長が祝辞を述べ、半田銀山そばの会への伊達農業普及所としての支援内容や、「会津のかおり」の特徴である「香り」「味」「のどごし」の良さを紹介しました。

その後、会員によるそば打ち実演を見ながら、約150人の参加者が、温かな豚汁とセットで、辛み大根などを薬味に桑折町産の新そば「会津のかおり」を堪能していました。



会員によるそば打ち実演

今後とも伊達農業普及所としましては、「会津のかおり」の安定生産に向けた技術指導や「半田銀山そば」のブランド化に向けて引き続き支援してまいります。

(伊達農業普及所)



## ◆北海道内の市場を訪問し、いちごのPR活動を行ってきました！

平成29年1月12日（木）から14日（土）の3日間、北海道札幌市及び旭川市において、ふくしま未来農業協同組合伊達地区本部いちご部会役員や同組合職員が、いちごのPR活動と青果市場訪問を行い、当農林事務所伊達普及所職員も同行しました。

今が旬の伊達地区のいちごは、販売金額は6億円、生産部会員数が110人と県内で最も多く、北海道が主な出荷先となっています。

初日は、札幌市内にあるホクレンショップ札幌エスタ店の地下食品館特設売り場で、同組合三瓶一彦部会長や部会役員、ふくしま未来農業協同組合プレゼンレディ等とともにPRを行い、来店したお客様に伊達産いちごを試食していただきました。試食した人からは「美味しい！」という声をいただき、とても好評でした。また、併せて宣伝した伊達地区のあんぼ柿はリピーターが多く、まとめ買いする姿も見られました。



丸果札幌青果株式会社との意見交換会

2日目は、午前中は丸果札幌青果株式会社において生産状況や市場情勢等の情報交換を行い、午後実施したイトーヨーカドー旭川店でのPR活動でも、前日同様、いちごの売れ行きは好調でした。その後、児童養護施設旭川育児院を訪問し、三瓶部会長が「いちごを食べて心の温かい人に育ててください」といちごをプレゼントすると、子ども達はとても喜んでいました。



イトーヨーカドー旭川店での試食販売会

3日目の旭川市内の株式会社キョクイチとの情報交換会では「当産地の品質は大変良い」との高い評価をいただきました。



株式会社キョクイチでの出荷状況

なお、3日間を通して本県産農産物の放射性物質に対する不安の声を聴くことはありませんでした。

当管内からは、この他にも、ももやニラなど多くの農産物が北海道市場に出荷されており、当農業普及所としましても、これらの生産者の活動を引き続き支援してまいります。

（伊達農業普及所）

新しい看板とともに、職員一同新たな気持ちで業務に励んでまいります。

(企画部・森林林業部)

## ◆県産木材を使用した木製案内板を取り付けました！

当農林事務所では、昨年8月に県庁北庁舎5階に移転し業務を行ってまいりましたが、このたび、来訪者の利便性向上と県産木材PRを目的として、通路に部の名称、執務室内に課の名称の入った木製案内板を取り付けました。



通路に取り付けられた部の案内板

これらの木製案内板は県産木材のスギから製作され、農林事務所らしい木目の温かい雰囲気案内板となっております。



課の案内板

## ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動県北地方推進本部の構成員活動紹介

### 福島県北森林組合

“ふくしまの森林再生を目指しています”

当組合は、平成19年4月1日に県北地区の4組合が合併し、福島県北森林組合として設立され、おかげさまで、今年で10年目を迎えることができました。現在、県北地区8市町村を管轄し、民有林53,000ha、組合員数9,038名で構成され、規模としては県内の森林組合の中では上位に位置する組合となっています。

主な事業として、適切な森林管理等の情報を組合員の皆様に提供する「指導事業」、植栽・下刈・間伐等を行う「森林整備事業」、木材の生産を行う「林産事業」、病虫害防除・支障木の伐採等を行う「利用事業」、山行苗木・林業用資材等を斡旋する「購買事業」、水林自然林・半田山自然公園の「管理業務」等を行っています。

さらには、東日本大震災による東京電力福島第1原子力発電所事故以来、しいたけ原木等の生産販売は困難な状況が続いており、復興への道筋は依然として不透明な状況にある中、当組合では組合員始め、森林所有者の皆様の東京電力に対する、しいたけ原木の損害賠償請求の「支援業務」を平成27年7月より行っています。

また、同事故の影響により森林整備が停滞し、森林が持つ公益的機能の低下が懸念される中、県及び管内市町村が事業主体となり、間伐などの森林整備と放射性物質の低減対策を一体的に実施する「ふくしま森林再生事業」が4年目に入り、当組合管内においても、各地で森林所有者に対する「事業説明会」及び事業実施の「同意取得業務」、「森林調査・設計計画業務」を行い、現在までに約370haに及ぶ間伐・更新伐・新植等の「森林整備」、延べ26,500mの「森林作業道作設」と11,000m<sup>3</sup>の間伐材の搬出を行い、放射性物質対策としては、丸太筋工・巻き落とし・木材のチップ化・植生土のう筋工等を実施してまいりました。

しかし、「ふくしま森林再生事業」により整備された当組合管内の森林は、まだほんの一部でしかなく、今後も当組合では福島県及び管内市町村と連携を図りながら、ふくしまの森林再生に向けて取り組んでまいります。



作業道の作設の様子



森林所有者への事業説明会



土砂流出防止のための丸太筋工

福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-521-2596 FAX 024-521-2850

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/>

電子メール [kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp](mailto:kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp)

